

令和7年度 学校評価報告書（目標設定 実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月 日実施)	総合評価（3月 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①グローバル社会における多様な価値観を理解し、協働して社会で活躍できる人材を育成する。 ②学校行事や生徒会活動を通じて、主体的に課題に取り組む姿勢を養う。	①校内のICT機器、電子黒板等を利用し、生徒が主体的に学ぶ姿勢を養う授業を実践する。継続して学習アプリを活用し、個別最適な学習の主体的な取組みにつなげる。  ①外国語教育の充実、姉妹校等を含む国際交流、海外修学旅行等、国際社会と交流する力を育成する。 ②体育祭及び氷焱祭の時期が、適切かどうかを追検証する。 ②生徒が活発に委員会活動や行事に取り組み、自らの民主主義意識やコミュニケーション能力を成長させる場を設ける。	①教科や学年を超えて、ICT機器や電子黒板の効果的な使用方法を共有し、生徒の興味・関心を引き出す授業を実践する。ICT機器を活用し生徒間や教員との相互的な活動をもとに学びを深める。 ①学習アプリを活用し、個別最適な学習活動を行う。 ①オンライン交流で多くの生徒への交流機会を増やし、直接交流にてより深いコミュニケーションを目指す。 ①授業等で「話す」活動を積極的に取り入れ、プレゼンテーションコンテスト等を通じて発信する能力を育む。 ②教職員の多くが、学校行事、部活動等について本校HPの更新を積極的に行う。 ②各行事の準備等や後片付けが円滑に行われるよう工夫する。 ②生徒同士がコミュニケーションをとりながら、生徒主導で行事等を計画・実施できるよう、教員の支援体制を構築する。	①ICT機器や電子黒板の効果的な使用方法を共有し、生徒が主体的に学ぶことができたか。（授業評価の推移）  ①授業改善につながるような学習アプリ等の研修を実施できたか。 ①交流への参加機会の充実に参加した生徒数、交流時間等をもとに検証する。 ①国際交流に参加した生徒たちの達成感や充実感をもとに良い交流が行われたか検証する。 ①プレゼンテーションコンテストを通して、英語力で発信する力の向上を感じることや、グローバルな視点で問題解決の意識を養うことができたか。 ②令和6年度に比べて、HPの更新が進んだか。 ②各行事の進捗効率が上がった、また、生徒の主体性が活かされたか。各方面から振り返る。 ②生徒自身でも行事・委員会活動の振り返りを行い、自分たち主体で進められたかを検証させる。					
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	①生徒一人ひとりに寄り添い、教育相談体制を充実させる。 ②部活動や行事を通して連帯感や責任感の涵養を図る。	①かながわこどもサポートドックと教育相談（いじめ）アンケートのシームレスな実施を目指す。 ①SCとSSWと関係職員との連携が負担なく円滑に行えるよう工夫する。 ②生徒間の人間関係が健全に構築できるよう、指導を工夫する。 ②部活動の大会情報や活動報告を生徒の目に多く触れさせ、相互の活動を認め合い、チーム横浜氷取沢としての連帯感を育む。また、救急救命講習会等を通し	①かながわこどもサポートドックの項目追加の工夫と、教育相談（いじめ）アンケートの実施により迅速且つ効果的に潜在的いじめ・いじりなどの早期発見・対応を行う。 ①定例コア会議の活用により、生徒の課題の情報共有と早期対応を行う。 ①生徒が、人間関係の不調などに起因する精神的な問題を乗り越えられるように、精神的自立を促す指導を充実させる。 ②昇降ロモニターやHPを通して、生徒会活動や部活動の情報を頻繁に発信し、応援や活発な相互交	①かながわこどもサポートドックや教育相談（いじめ）アンケートにより明らかになった点を生徒支援に生かすことができたか。 ①コア会議が、生徒の抱える問題の気づきに活かされたか。また課題を抱えている家庭の掌握に役だったか。 ①生徒が抱える課題について、どのような指導の工夫が可能であったか、意見集約したり結果から検証したりする。 ②部の活動状況や大会結果などを、必要十分な頻度で発信ができたか。					

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月 日実施)	総合評価 (3月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
			て生徒会活動としての部活動に安全に取り組む責任感を育む。	流に繋げる。						
3	進路指導・支援	①自己と集団や社会との関わり、職業観、倫理観、使命感等を育成する。 ②自他の幸福を追求し、自立し、たくましく生きるための基礎力を身に付けさせる。	①生徒が10年後の自分をイメージし、自己の人生をプランニングできる能力を開発する。 ②生徒の他者を思いやる心や、社会に貢献する意欲を育む。	①生徒に単に進路希望を問うだけでなく、自己の生き方あり方を問いかけるガイダンスを実施する。 ②個別学習で基礎力を高めるとともに、自他の考えを共有・尊重し、進路やライフプランに繋げる指導を行う。	①進路支援グループ職員を核とし、各学年の教職員が共通の視点で指導を行ったか。 ②学習支援アプリを全学年導入し、個に対応した学びを充実させることができたか。					
4	地域等との協働	①家庭、地域の教育力を活用し 地域との交流活動を通し、保護者や地域に信頼される学校づくりをめざす。	①本校HP、SNS等でのコンテンツを充実させる。 ②学校運営協議会委員との協働等により、様々な形の地域連携を模索する。	①各媒体の更新頻度を増やし、コンテンツの作成手順を確立させる。 ②地域が本校に対し、どのような貢献を求めているか、学校運営協議会等を通じて情報収集し、可能などころから協力していく。	①HPの更新頻度が令和6年度に比べて増加したか。内容が整理されているか。 ①発信する内容を精査し、必要な情報が、必要とする人に届いているのか検証する。 ②学校運営協議会等の提案や意見等の情報を地域貢献に生かすことができたか。					
5	学校管理 学校運営	①安全で安心な学習環境の維持に努め、点検・改善に努める。 ②信頼かつ信用ある学校経営に努め、事故不祥事根絶に向け、強い決意をもって臨む。	①広報活動の多様化、頻度の向上を目指す。 ①防災委員会や通じて生徒の防災意識を高める教育活動を行う。 ①環境整備委員会の生徒を中心に美化活動と資源の再利用に努める。 ②成績処理マニュアルを作成し、成績処理業務における事故の未然防止に努める。 ②教員の働き方改革に対する理解を深め、改善を進める。また、事故防止・不祥事根絶の意識・実践を進める。	①各種説明会、学校案内、HP、SNS等を通じて発信をし、生徒及び保護者の求める内容の広報活動を行う。 ①通常の防災訓練の他、DIGやシェイクアウト訓練等を実施する。また、地域との連携も検討する。 ②成績処理マニュアルにより成績処理の手順を各教員が把握し、複数の目で点検する体制を作る。 ②事故・不祥事防止会議の定期的な開催による意識啓発を行う。 ②業務の負荷軽減や時間外労働の縮減、業務の見直しを通じ、働き方改革を進める。	①広報活動の内容を量的に評価するとともに、必要とする人に届いているのか検証する。 ①防災委員会の生徒向けアンケートを通じて生徒の防災意識が高まったか。 ①環境整備委員会の生徒向けアンケートを通じて生徒の校内美化意識や資源回収意識が高まったか。 ②成績処理手順を各教員が把握し、連携して成績処理を行える体制が作れたか。 ②不祥事防止等について、適時適切な啓発機会等を持てたか。 ②前年度に比べ時間外労働の低減と業務改善に取り組めたか。					